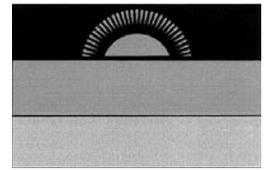


Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。



マラウイ共和国 国旗

編集・発行：日本マラウイ協会

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付

Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269

Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

E-mail [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

### 【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)

人口：1131 万人 (2000 年推計)、首都：リロングウェ

独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語

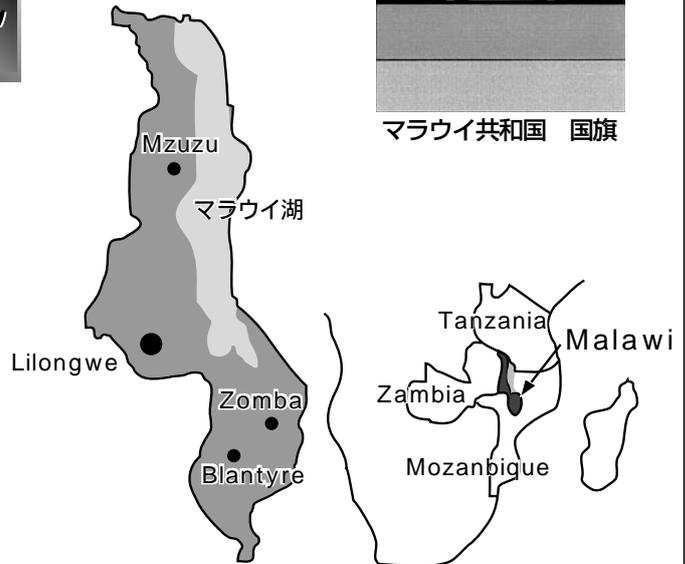
政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ

為替レート：US\$ 1 = MK 105.76 (9 月 5 日現在)

MK 1 = 1.04388 円 (9 月 5 日現在)

### 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：264 人 (9 月 1 日現在)



### ニュース

#### マラウイ新大統領にピング・ワ・ムタリカ氏

任期満了に伴うマラウイ大統領選挙が 2004 年 5 月 20 日行われ、与党 UDF/AFORD/NCD 連立候補のピング・ワ・ムタリカ (Bingu Wa Mutharika) 氏が当選した。同 23 日にマラウイ選挙管理委員会が発表した開票結果は次の通り。

	氏名	所属政党等	票数
1	Dr. Bingu Wa Mutharika	UDF/AFORD/NCD 連立	1,119,738
2	Mr. John Tembo	MCP (マラウイ議会党)	846,857
3	Mr. Gwanda Chakuamba	Mgwirizano (野党 7 党連合)	802,386
4	Mr. Brown Mpinganjira	NDA (国民民主同盟)	272,172
5	Mr. Justine Malewezi	独立系	78,892

同 24 日、ブランタイアのチチリ・スタジアムで近隣諸国首脳出席のもと就任式が行われ、ワ・ムタリカ氏は第 3 代マラウイ大統領に就任した。

一方、BBC (英国放送協会) ニュースインターネット版などの報道を総合すると、同 24 日、野党側は不正があったとして裁判所へ選挙プロセスの見直しや再選挙を申し立てた。また同 27 日には、マラウイ議会党、野党 7 党連合、国民民主同盟が国会内で共闘を組み、最大会派を結成することに合意した。しかし、6 月 3 日には野党 7 党連合の Gwanda Chakuamba 氏は先に合意した共闘会派から離脱し、ワ・ムタリカ新大統領政府を支えることを発表、裁判所への申し立ても取り下げるようになった。

### ニュース

#### 第 22 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 22 回通常総会が 2004 年 5 月 15 日 (土) 午後 3 時から、東京・渋谷区の広尾青年海外協力隊 (JOCV) 訓練所大会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 15 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、国際協力フェスティバル参加、当会設立 20 周年記念国情セミナー/シマを食べる会 (懇親会) 開催など、平成 15 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。

第 2 号議案の平成 16 年度事業計画と予算案では、以下を特記事項とし、基本的に前年度と同様に広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開してことが示された。

- CD-ROM 写真集等の発行を引き続き検討する。
- 第 3～4 回ウォームハートプロジェクト申請の受付締切日は 6



▲ 審議の様子

月 30 日、9 月 30 日、12 月 31 日を予定する (早期に案件が確定した場合は 9 月 30 日、12 月 31 日の締切は設定しない)。

- 青年海外協力協会 (JOCA) プロジェクト (マラウイ版国内協力隊創設) への支援 (予算的なものでなく情報的なもの) を必要に応じ行なう。第 3 号議案の役員の一部改選に関する件では、昨年度からの変更点として、瀧美堅持・岡田啓一 両氏の退任、仲井儀英 氏の理事就任が示された。第 1～3 号議案は質疑応答の後、議長が一同に諮ったところ満場一致で承認された。

### ニュース

#### 駐日マラウイ大使館一等書記官着任



駐日マラウイ大使館に新しい一等書記官 Mrs. Grace Bona Karonga が着任した。寄稿いただいたので紹介する。

\*\*\*\*\*

When I was informed of my diplomatic posting in April, 2004 to Japan, I was filled with apprehension because Japan is too far away from Malawi and I was not sure whether I was going to enjoy my stay. I was working at the Ministry of Foreign Affairs of Malawi and was heading the Europe, Commonwealth and Australasia Desk.

Barely two and a half months later, when I look back, I couldn't have been posted at a better mission! The people are very friendly, most of them are ready to say *ohayo gozaimasu* when you meet them in the neighbourhood where I stay, although communication for proper sentences is still a problem.

When I arrived in Japan, a month later, I was surprised to be invited by the Japanese at the *nsima wo taberu kai*. I met many cheerful Japanese who had different stories to say about their stay in our country, *Malawi, the Warm Heart of Africa!*

It is encouraging to note that the members of this association still spare their time to reminisce about the time they spent in Malawi. We don't take the time you volunteered to work in Malawi for granted. Malawi is a poor country which is faced with many challenges. There is poverty, illiteracy, HIV/AIDS pandemic, just to mention a few.

We therefore need concerted efforts with friendly governments like Japan to tackle these challenges. Lobi in Dedza is an example of what efforts by a friendly government can do. It was a dry, rural area with no vegetables, nothing whatsoever. Now, it's flourishing with vegetables, fruits and general improvement because of Japanese volunteers. In this regard, it is my hope that, as people who have been in Malawi already, you need to assist the Embassy in its endeavour to woo Japanese investors and attract tourists.

Assist us in seeking funds to do small projects like rehabilitation of

school blocks and rural villages. You know what! To rehabilitate a school block can cost six hundred thousand yen per block, but this can go a long way to assist children who have no classes and are having their lessons under a tree.

Finally, I wish you all the best in your daily endeavours and do not remember Malawi on nsima party day only, but try to remember it every day.

**Domo Arigato Gozaimasu**

**イベント 国情セミナーとシマを食べる会**

日本マラウイ協会では2004年7月3日(土)、広尾青年海外協力隊訓練所でマラウイ独立40周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後2時から、駐日マラウイ国大使 Mr. James John Chikago が約1時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。

午後3時からは、玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Chikago 大使と数原会長が献花した後、元 JICA マラウイ事務所員の水谷恭二氏より、マラウイ在任中に亡くなった12名の隊員の名前が読み上げられ、全員で1分間の黙祷を行った。



▲ 慰霊碑前で

その後、会場を1階食堂へ移し「シマを食べる会」が行われた。まずテープによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、数原会長が独立40周年への祝辞を述べた。次に Chikago 大使が、独立記念日行事を催した当会と、マラウイの各分野で活動する青年海外協力隊員および帰国後も日本とマラウイの友好親善・理解促進のために活動している当会会員に謝意を示された。

続いて、今年5月のマラウイ協会総会で理事を退任された岡田啓一氏へ、21年間にわたる当会への貢献に対して数原会長から感謝状と記念品が贈呈された。また、チリマ参事官より、大使館職員と職員家族の紹介が行われた。



▲ シマを食べる会で挨拶する Chikago 大使

続いて、チリマ参事官の乾杯の音頭で会は始まった。大使・大使館職員・家族・OB/OG らはシマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、大使館提供による木彫りなどが当たる抽選が行われ、当選者は歓喜に沸いた。

参加者は、遠



▲ 大使館職員の子供と

くは新潟県、愛知県から来た人など総勢約70名となり、マラウイ独立40周年記念にふさわしい「シマを食べる会」となった。



▲ 参加者全員で記念撮影

**イベント マラウイ国情セミナー要旨**

日時: 2004年7月3日(土) 14:00 ~ 15:00  
場所: 広尾青年海外協力隊訓練所 大会議室  
講師: 駐日マラウイ国大使 H. E. Mr. James John Chikago

**【講演要旨】**

マラウイは1994年に民主化されて以来、United Democratic Front (UDF) が政権を維持している。民主化当初は国民に選挙が根付いておらず、地域性に基づいて投票するなどの傾向もあったが、3度目の国政選挙(2004年5月)では自分の意思に従って投票しているようだ。その意味ではマラウイは成熟してきている。

今回の国会議員選挙と同時に行われた大統領選挙では、Bingu wa Mutharika 氏 (UDF: United Democratic Front) が1位、John Tembo 氏 (MCP: Malawi Congress Party) が2位、Gwanda Chakuamba 氏 (Mgwirizano: Unity Coalition) が3位であった。国民は選挙を理解し始めている。

5月24日の大統領就任式には多くの外交官の他にルワンダの大統領も出席した。ムタリカ新大統領は連立内閣を組織しなければならなかった。また内閣が大きすぎるといった批判に応じて大臣の数を94から26に縮小した。例えば外務省と国際協力省や運輸通信省と観光省を統合した。そのため予算も改善されるであろう。経済や政治は改革されているが、問題は民間部門が「政府はすべてのことをしてくれる」と考えていることだ。またあらゆるものは外国政府から提供されると考えている。新大統領は民間部門に対して「あなたがたが働かなければいけない」と言っている。国民が貧しい背景には、心構えが貧しいことがある。



▶ 講演する Chikago 大使

私の著書「CROSSING CULTURAL FRONTIERS Analysis and Solutions to Poverty Reduction - Japanese Parallels」(購入法: 4面参照) は国民の心構えを変えようとするものだ。日本人ボランティアは地方部で働くことによって、マラウイ人が知らなかった仕事への取り組み方を教えている。そのことによってマラウイ人の大学卒業者もよい影響を受ける。つまり、JOCV はマラウイ人の心構えを変えている。もしすべてのマラウイ人がボランティアに来たら、だれが地方部を発展させるか。日本政府は5億6,800万円の無償資金援助を教育(ドマン教員養成校改善計画)のために供与することになった。

心構えを変えることが重要である。私は日本に来るまでマラウイ(の課題)を十分理解していなかった。日本人は日本食を食べ豊で暮らしている。一方、マラウイで売っているものは南アフリカから買ったものばかりだ。日本はマラウイ

に3つのものを提供している。それは文化と経済と技術である。このことがアフリカにおける日本の重要な点だ。

日本がアフリカ開発会議(TICAD)を開催する際には、政府と民間人が集まり日本やアジアからの投資について話し合

いを持つ。外務省の人でもマラウイの実態をよく知らないこともある。ビジネスマンでもアフリカは危険だと思っている。しかしマラウイは彼らの心配するほど未成熟ではない。それはマラウイがアフリカで最大級の JOCV 受入国であることから分かるであろう。マラウイは外国からの投資を必要としている。それは大規模でなくても良い。小規模な投資家をさがしている。好例として、リロングウェには元 JOCV によるコリアナレストランという日本料理店がある。

私は二つの目標を持っていた。ひとつは大統領を日本に呼ぶことであり、もうひとつはマラウイに日本からの投資を呼ぶことである。新大統領も投資の重要性を強調している。トヨタでなくてもよい。例えば、マラウイでゴマやコーヒーを生産して輸出することだ。マラウイは潜在力を持っており、日本でもと売ることができる。私は北海道で大豆のサンプルを見て、マラウイの大豆の種類のひとつは日本の大豆の種類と同じであることが分かった。大豆から油をとることも一つの方法であろう。大豆油の生産は鶏などの飼料を生み出すことにもなる。これらの活動のためには日本からの支援が必要だ。

前大統領と私は大分を訪問した。大分にも元 JOCV 隊員がいる。マラウイにおいて一村一品運動は驚くほどうまくいっている。既にいくつかの事業はメダルを受賞している。一村一品運動はマラウイを変え始めている。今ではトマトやきのこは南アフリカ産ではなくマラウイ産だ。ムルジ前大統領からムタリカ新大統領への移行は一村一品運動の継続という意味でも良かったと思う。経済発展には圧倒的多数の参加が必要だ。傍観者ではだめだ。

1994年以降、ラジオ局や教会さえも増えている。9人の大統領候補や38人の無所属議員がいる。我々は正しい方向にあり、新政権に対して教員養成校の無償資金援助が供与されることになったこともその反映であろう。

マラウイは主食であるとうもろこしを南アフリカから輸入しなければならなかった。そこで新政府はいくつかの農場ととうもろこしを購入する契約した。とうもろこしの価格が低すぎて生産が低下したため、このように一定の価格で購入する予約をすることで生産のインセンティブを与えている。このような改革によって5年以内に食糧自給が実現されよう。なお、改革の一環としてすべての公務員は履歴書を提示しなければならなくなった。



▲ 質問する参加者

**【質疑応答要旨】 Q: 質問 A: 回答**

**Q** 納豆や豆腐を生産するのはどうか。  
**A** 現在、大豆油を生産することを考えている。マラウイ人は豆腐の作り方を知らなかった。今学び

始めているところだ。

**Q** 1米ドルが100クワチャを超えた為替の動向

**A** クワチャは脆弱だ。タバコの輸出がよければマラウイのクワチャは強いのだが、タバコの輸出は減少している。タバコの価格は下がっている。コーヒーの輸出も減少している。また、とうもろこし不足で輸入しなければならなくなっている。このことは食糧その他すべてのことに影響をおよぼす。さらに大統領の三選の話(ムルジ前大統領が憲法を改正して三選を目指すのではないかとということ)があり国際的機関ではなくローカルな銀行から融資を受ける必要が生じたことがあった。しかし、予算は修正され、ムルジ前大統領は三選を目指さないことを受け入れたので良い方向にあらう。

**Q** ムルジ前大統領の動向

**A** ムルジ前大統領は、政府の外で、引き続きUDFの党首であり村一品運動の議長でもある。今後多忙であろう。彼は現在英国で休暇中である。休暇を経て、大統領でなくなったことへの気持ちの切り替えができよう。引き続きサッカーチームのオーナーでもある。

**Q** 宗教の動向

**A** マラウイにおいて宗教の役割は大きい。マラウイはスコットランドの宣教師に発見された。草の根の教会も60%はキリスト教だ。ムタリカ新大統領はカトリックだ。一時そのことによる誤解も生じた。人々は社会問題や経済的問題を持ち教会に行く。教会の中には従来の教会のほかにカリスマ的な教会もある。そこでは、ディスコのように歌ったり踊ったりする。

**【チカゴ大使からの提言】**

ブランタイヤには日本レストランが無い。ひとり1万円ずつ投資して日本レストランを共同経営するのはどうか。

以上

**レポート 第3回 マラウイウォームハートプロジェクト**

日本マラウイ協会では、マラウイ国内の地域発展と改善のために必要な草の根レベルでの協力活動で、資金不足であるが協力隊員の隊員支援経費を活用できないものを支援することを目的に、隊員からの要請に基づいて直接的な資金援助を行っている。

当プロジェクトの第3回目として、平成14年度3次隊 鈴木とも子隊員(理科数教師)から2004年6月20日付で「図書館蔵書数増加プロジェクト」の申請があった。

当会では同年7月21日に合議審査の結果、申請案件を適正と認め、教原会長へ決裁を上申した。申請金額は185,860円。7月23日に数原会長の決裁を得て、7月30日に送金した。以下は鈴木とも子隊員のプロジェクト申請書の抜粋である。

\*\*\*\*\*

**プロジェクト名:**  
図書館蔵書数増加計画

**プロジェクト場所:**  
Chimwalira Secondary School 図書館

**プロジェクト概要:**

当学校の図書館に様々な種類の図書を購入し、生徒が読書をする機会を増やす。様々な図書を読みまたは見ることによって、読書の楽しさを更に感じ、また、知識の蓄積、思考力や想像力の発達を促し、日頃の勉学の助けとし学力向上に繋げる。

Chimwaliraはゾンバから約30キロ離れた村だが、当学校の他にテクニカルカレッジがあるため人口はさほど少ない。郵便局、診療所(医師はいない)や雑貨屋があり、週2回市場が開催され、日用品や野菜が購入出来る。電気や水道が利用できる地域は少なく殆どの住民が

電気や水道がなく暮らしている。交通は、自身で自転車をこいで約15キロ先の町に出てミニバスに乗るか、自転車の荷台もしくは町に出る車に乗せてもらうか、または、自ら歩くか、限られた移動手段しか存在しない。



▲ チムワリーラセカンダリースクール図書館

当学校の生徒は、周辺の村々から通って来ており、2時間かけて通学してくる者もいれば学校の周囲に住んでいる者もいる。どの生徒も殆どが住居に電気が無く暮らしている。セカンダリースクールは4年制で、年齢は14歳から約20歳までの生徒が存在する。当学校は7時半から授業が始まり2時20分で終わる。その後は、帰宅し、畑仕事、水汲みや料理等の家の手伝いをする生徒が殆どである。土日は、ラジオを聴く、本を読む、友達と話しをする、教会に行く他は家の手伝いをして過ごしている

当学校に赴任した当初から図書館の蔵書について疑問を感じていた。殆どの図書が教科書で、数冊文学や辞書が存在するのみで、更に同じ図書が20冊や30冊といった多数存在している。その図書(教科書)は古く、現在のセカンダリースクールの学習内容にあてない上に、破損している状況である。

また、生徒が学校図書館から本を借り、休み時間に読書している場面を多く目にするが、読んでいる図書はやはり教科書であり、稀に文学を読む生徒も見られるがシェークスピア等の古典文学といった状況である。生徒は読書することが好きで図書館利用率は高いのだが、多種の図書に出会い読書出来る機会に出会うことが困難である。

協力隊活動として授業を行う中で、生徒の思考力や想像力が乏しいため勉強が理解出来ない、問題が解けないといったことを頻繁に感じる。それは、全て読書環境が貧弱であることから生じているものではないと考えるが、読書することによって思考力や想像力が発達することはあり得るため、学力向上の助けにとして様々な図書を読める環境をつくることを進めたいと考えている。

以上から図書館の蔵書を増やし生徒の読書環境向上を図るため計画を考え本申請に至った。なお、購入希望図書の選定については、学校図書館司書担当の先生と話し合い、アフリカ文学及び外国文学、図鑑、伝記及び教科書と決定した。(当プロジェクトの進捗状況については別途また紹介する。)

**投稿 輝きと想いはいつも JOCV・OB S52-1 後期 上下水道 吉田 均**

いつの時からかマラウイ協力隊員創生期の人たちの集まりがはじまった。初代昭和47年度隊員を筆頭に53年度隊員までの家族、そして仲井元駐在員ご夫妻。日本人として初めてマラウイの地に足を踏み、その後続くマラウイ協力隊の道筋を創り、マラウイで20歳代を過ごし、現在もなお、その時の輝きと想いを昨日の如く語り合う仲間たちである。

52年度隊員の私にとって、訓練時代は本作さんや西野さんを通しマラウイを知り、現地では森本さんや有馬さんのマラウイに対する熱い情熱を学んだ。帰国してからもマラウイの諸先輩の存在は大きく、常に指針と励ましを与えてくれる。



▲ 参加者全員で

今回は7月24日に新宿で23人が集まって楽しい時間を持った。リロングウェはエリア3の家の白壁に描いたシマウマの作者、柴田さんに今回会えたこと、20年ぶりで木内さんや、ウォームハートプロジェクトでお世話になった村上さんに会えたことはすごく嬉しかった。また、今回日本マラウイ協会にこの仲間たちから26,000円の寄付がありました。

**投稿 25年ぶりのマラウイ JOCV・OB S52-2 後期 土木設計 津川 智明**

『自分の住んでいたフラットはどこだったっけ。キャピタルホテルから右折して、その後左折して坂を登って一番端っこのフラット?』リロングウェのキャピタルヒルにあるArea11に何回か足を運んで、25年前の記憶を思い出すと試みるがうまく思い出せない。家から職場まで毎日通った通勤道もよく思い出せないのだ。『2年間毎日通った道なのに、毎日住んでた家なのに、なんで思い出せないんだろう』とても重苦しい、嫌な気分だった。思い出せない自分が情けなく思った。25年の月の日せいのなか。それとも自分の記憶力の問題なのか。

私は昭和53年4月から2年間土木設計の隊員としてリロングウェに住んだ。昭和52年度2次隊後期組である。当時のマラウイ協力隊は稲田武司駐在員、笹子実調整員のコンビで、JICA事務所はブランタイヤにあった。因みに優秀で人望のあったMr. Gondoweが事務所を支えていた。隊員数は70名を越えていたと思う。キャピタルヒルの政府庁舎の真っ白な建物もまだ真新しく、すぐ近くにプールのあるリロングウェホテルができたばかりであった。

この度、社団法人 青年海外協力協会(JOCA)独自のプロジェクト立ち上げのため、事前調査団員として6月下旬から7月中旬までマラウイを訪問した。25年ぶりである。平成15年9月まで、ウガンダにボランティア調整員として勤務しており、その間になんかマラウイを訪問したいと考えていたが、ついに叶わなかった。マラウイは私の妻の生地でもある。

プロジェクト立ち上げの仕事しながら、25年前の記憶をたどる旅でもあった。リロングウェやブランタイヤの町並み、職場であった設計局の建物、ホテルやスーパーマーケット、レストラン、そして頻りに訪問した隊員の家、銀行、郵便局等々。しかしである。古い道路はもとのままあるのだろうが、新しい道路ができた。当時の建物が取り壊され新しいものが建っていたりして、当時のことがなかなか思い出せない。不思議な気持ちであった。第2の故郷でありながら、新しい場所に来ているような。唯一、活動場所だった職場の建物を見たときは懐かしさがこみ上げてきて当時の思い出が甦ってきた。25年の歳月は良きにつけ悪きにつけ頭の中から記憶を拭い去ってしまうらしい。

私は隊員時代にマラウイ人の親しい友人は少なかった。その代り、あるインド人の家族とは親しくしていた。多くの先輩隊員から付き合いのあったOsman Jagot氏と彼の家族である。25年間も離れており、特に会う予定はなかった。ある日、リロングウェにいるインド人に仕事

の関係で話をした折、駄目もとで Osman のことを知っているか尋ねてみた。すると、よく知っているという。その場ですぐに Osman の働いているところを調べてくれた。私は、25 年前の彼の顔を思い出しながら彼の職場に向かった。当時は自分で自動車整備の小さなガレージを経営していたが、今は大きなガレージに雇われていた。受け付けの人が Osman を呼びにいった。本当にあの時の Osman が現れるのか。緊張で胸が高まる。『Hello Tomo!』覚えていてくれた。ちょっと白髪が目立つが、間違いなく Osman である。隊員時代よく彼の家にお昼を食べに行った。いつも家族同様に接してくれた。休みの日はいるんなどところに連れて行ってくれた。彼の弟の Amin と我が家で空手の練習もした。再会の夜、彼は他の調査団員も含めて彼の家に招待してくれた。25 年の時を越えて、隊員時代の一つ一つの出来事に花が咲いた。彼は私が隊員を終えた年に結婚し 2 人の子供がいて幸せそうであった。

25 年でマラウイはどんなに変わったか。垣間見ただけで判断するのは危険だが、垣間見ただけから素直に見られるところもあるだろう。まず、インフラは間違いなくずいぶん良くなっている。特に道路は良くなった。リロングエ〜ブラントイヤ間も 4 時間くらいで移動できる。リロングエからムズズに行くのにレイクショーのクタクタ経由で行ったが、すばらしい道路であった。電気や水道の普及も良くなっているに違いない。逆に悪くなったところはないか。多分、治安は悪くなっている。民主化と関係があるのか、開発・発展と関係するのかもしれない。地方と都市がはっきりしてきて、生活レベルの格差が広がったためではなからうか。あるいはマラウイ人の生活の中にお金と物の占める割合が増大するという物質至上主義がはびこり、助け合う慣習が薄れてきているのかもしれない。

25 年前はできたばかりの政府庁舎もガタが出てきている。当時最新の機械が入っていた職業訓練学校は、スペアパーツが補充できずに

一部しか使われていなかった。援助が十分に足りないからだという。援助漬けの状況がひどくなってきているか。マラウイでのプロジェクト立ち上げという仕事で訪問したが、援助・支援の方法を考えさせられた。

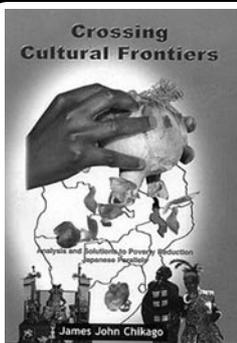
25 歳で初めての飛行機に乗り、初めて行った外国は協力隊のマラウイであった。どんなに私を変えたか言葉では言い尽くせない。たかが 2 年間の協力隊かもしれないが、人生をも変える、されど協力隊である。そういう意味では協力隊は覚悟して参加しなければならないものだ。計画どおりにはいかないものだから。

マラウイには親しい友人がいる。彼にはいつまでも元気でいて欲しい。時間と共にマラウイも変わり、私も変わっていく。自分は金持ちになるよりも健康で幸せな家庭と共に生きていきたいと願うように、マラウイも外部からの支援を抑え、苦難であっても自立発展の道を模索して欲しいと願いたい。25 年目のマラウイ訪問は多くのことを考えさせられる旅であった。

## 《日本マラウイ協会》

平成 16 年 3 月～ 8 月活動内容

- ① [3 月 24 日] 機関紙 KWACHA 第 31 号発行
- ② [5 月 15 日] 第 22 回通常総会開催 (1 面の記事参照)
- ③ [7 月 3 日] 国情セミナー・シマを食べる会開催 (2～3 面の記事参照)
- ④ [7 月 21 日] ウォームハートプロジェクト審査 (3 面の記事参照)



### ■駐日マラウイ大使の著書

駐日マラウイ大使の著書「CROSSING CULTURAL FRONTIERS: Analysis and Solutions to Poverty Reduction - Japanese Parallels」が出版されました。ビジネス経験を持つ大使が、1 年半の日本国内視察の成果に触れ、「トヨタ」の企業文化、新潟の稲作・灌漑と米の二次生産物、大分の「THINK GLOBALLY ACT LOCALLY」スローガン、北海道釧川の果物生産と簡単な技術を使った加工産品等に言及しながら、マラウイ人に対してビジネス改革を通じて国家建設への道を説いています。

### 【購入方法】

駐日マラウイ大使館へ送料とも 1200 円を送金するとともに、注文者の住所、氏名、電話番号、送付先を電話、Fax、Eメールのいずれかで駐日マラウイ大使館へ連絡のこと。

- ・送金先 シティバンク銀行 広尾支店 普通口座 7743173  
口座名 MALAWI EMBASSY PROPERTY
- ・連絡先 駐日マラウイ大使館 担当: 牧野  
Tel: 03-3449-3010 Fax: 03-3449-3220  
Eメール: malawi@luck.ocn.ne.jp

### ■新聞記事

去る 7 月 6 日付けの Japan Times に、駐日マラウイ大使 Mr. James John Chikago と当会会長の数原孝憲が独立 40 周年記念日に寄せた記事が掲載されています。是非ご覧ください。

### ■「国際協力フェスティバル 2004」出展協力者募集

毎年恒例の「国際協力フェスティバル」が来る 10 月 2・3 日 (土・日) に東京・日比谷公園で開かれます。日本マラウイ協会は今年もマラウイの紹介や民芸品の販売などを計画しています。両日の 09:00～17:00 の間、またはその一部の時間帯にお手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mail へご連絡をお願いします。また、皆さんの来場をお待ちしております。

### ■KWACHA バックナンバー

当会は今年 2 月 26 日に創立 21 周年を迎えましたが、創立時の機関紙 KWACHA 第 1 号から第 32 号 (今号) までの全バックナンバーを PDF ファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

### ■日本マラウイ協会の刊行物

- ① チェフ語辞典 統合改訂版 (2000 年 7 月発行)  
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円 (送料 290 円)



## 日本マラウイ協会情報



- ② マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版 (97 年 7 月発行)  
「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」  
B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円 (送料 210 円)
- ③ 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版  
(94 年 7 月発行)

A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円 (送料 210 円)  
送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を 1 冊づつご注文の場合は次のとおりです。

$$\begin{aligned} ① + ② &= 340 円 & ② + ③ &= 290 円 \\ ① + ③ &= 340 円 & ① + ② + ③ &= 340 円 \end{aligned}$$

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

### ■ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、右記当協会宛へ遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

### ■日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第 3 水曜日 18:30～に、東京都内 (通常は広尾青年海外協力隊訓練所 1F 研修室 2) で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

### ■日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円) を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送り下さい。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付

日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

UFJ 銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

郵便振替 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。